

平成31年度 全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果について

桶川市立加納中学校

はじめにお読みください。

<調査の結果をご覧になる方へ>

各小・中学校では、全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果を、一つの資料として児童生徒一人一人の学習状況と、学校全体の学習への取組状況等を把握しています。また、学力の経年変化等、学校全体で情報を共有するとともに、調査結果の分析を通して自校の取組の成果と課題を明らかにしています。さらに、その分析に基づき、課題解決のための「学力向上プラン」を点検し、児童生徒の学力向上に係る取組の改善を図っております。



今後、成果を上げたと考えられる取組を校内でも共有し、さらなる児童生徒一人一人の学力向上に努めてまいります。

また、調査の結果とその分析、学力向上に係る取組を、保護者及び地域の皆様にお知らせし、情報を共有することを通して、学校の状況をより深く知っていただき、家庭での学習にも生かしていただくことが、児童生徒の学力向上につながると考えます。

調査の結果をお知らせするにあたり、本結果をご覧になる方々には、以下の点にご留意くださいますようお願いいたします。

- (1) 各調査の目的等について、ご理解くださるようお願いいたします。
- (2) 平均正答率等の数値だけではなく、学校で分析した結果や学力向上プランをはじめとする学校の取組とあわせてご覧ください。
- (3) 本調査で測れるのは、①調査対象の教科等学力の特定の一部分であること、②学校における教育活動の一側面であることをご理解ください。

<全国学力・学習状況調査の概要>

※「平成31年度 全国学力・学習状況調査に関する実施要領」(文部科学省)より抜粋

1 調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象

中学校第3学年 原則として全生徒

3 調査実施日

平成31年4月18日(木)

4 調査の内容

(国語、算数・数学、英語) 教科に関する調査	・小学校調査は、国語及び算数とし、中学校調査は、国語、数学及び英語とする。 ・出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。 ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容 ・調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、国語及び算数・数学においては、記述式の問題を一定割合で導入する。英語においては、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」、「書くこと」に関する問題を出題し、記述式の問題を一定割合で導入するとともに、「話すこと」に関する問題の解答は、原則として口述式によるものとする。	
	【中学校 国語・数学 各50分】 【中学校 英語「聞くこと」「書くこと」「読むこと」 45分】 【中学校 英語「話すこと」5分】	
生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査	児童生徒に対する調査	学校に対する調査
	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 将来の夢や目標の有無、起床・就寝時間、部活動の参加状況、ICTの利用状況、読書時間、家庭学習の状況 など 【20分程度】	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 学力向上に向けた取組、指導方法の工夫、ICT環境整備、教員研修、家庭・地域との連携の状況など

桶川市の調査結果の概況

中学校

は全国平均正答率を上回ったもの

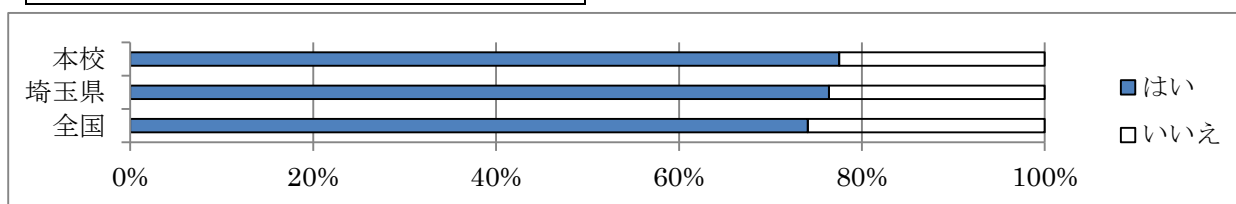
国語				
学習指導要領の領域等	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
話すこと・聞くこと	3	70.8	69.6	70.2
書くこと	2	84.9	83.0	82.6
読むこと	3	73.1	72.3	72.2
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	2	66.3	67.0	67.7

数学				
学習指導要領の領域	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
数と式	5	60.0	62.4	63.8
図形	4	70.3	72.0	72.4
関数	3	33.6	39.3	40.8
資料の活用	4	54.3	56.3	56.3

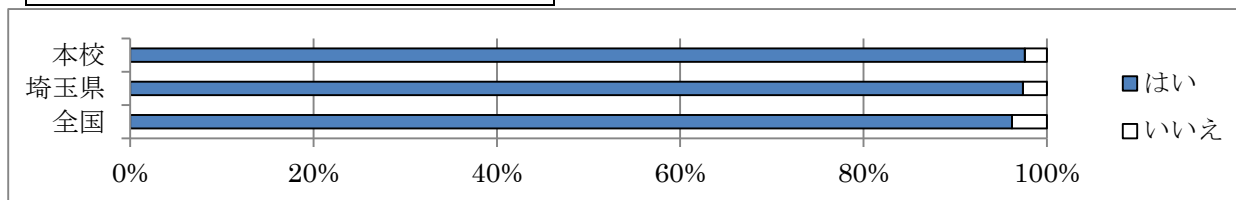
英語				
学習指導要領の領域	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
聞くこと	7	67.4	68.9	67.9
話すこと (参考値)	5	32.9	-	30.8
読むこと	6	55.7	56.0	55.6
書くこと	8	47.5	45.9	45.8

＜生徒への質問紙調査＞（主なものをグラフで表示）

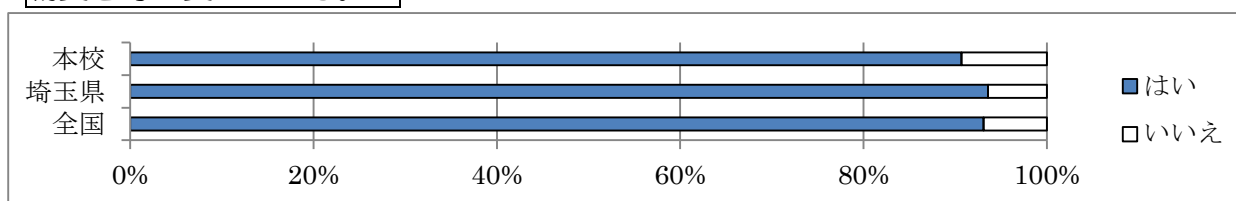
自分には、よいところがあると思う。



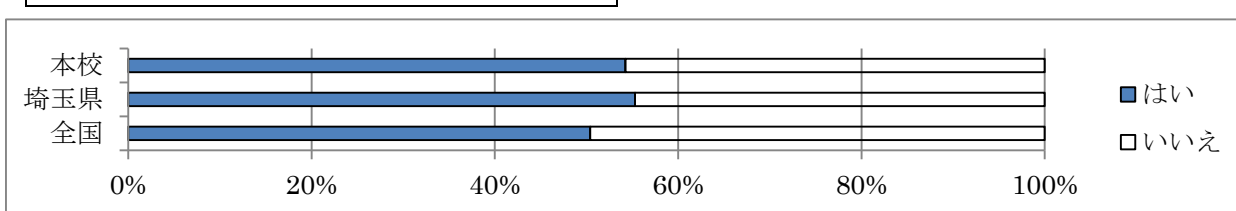
学校のきまり（規則）を守っている。



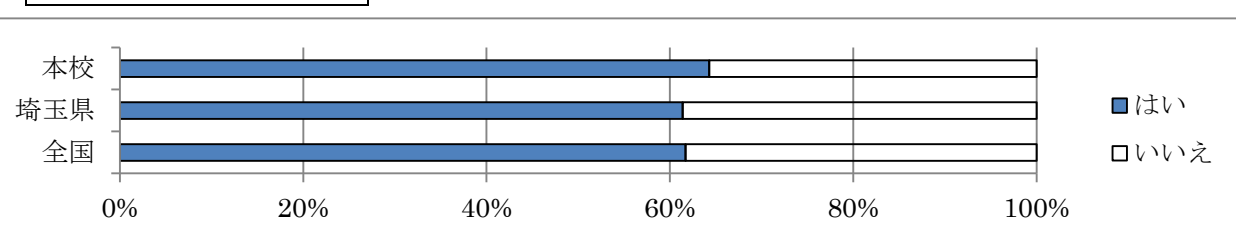
朝食を毎日食べている。



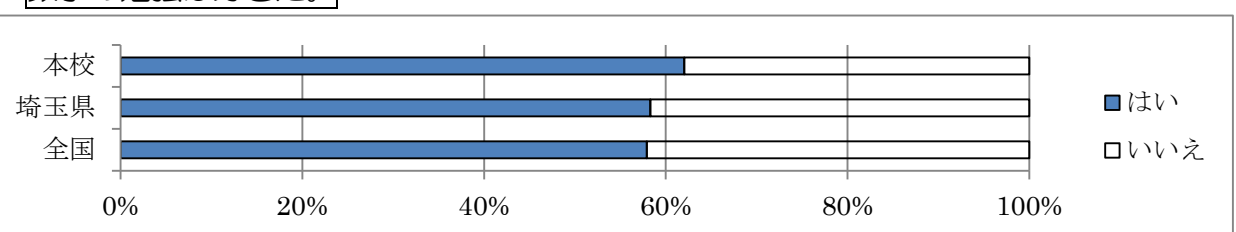
家で、自分で計画を立てて勉強している。



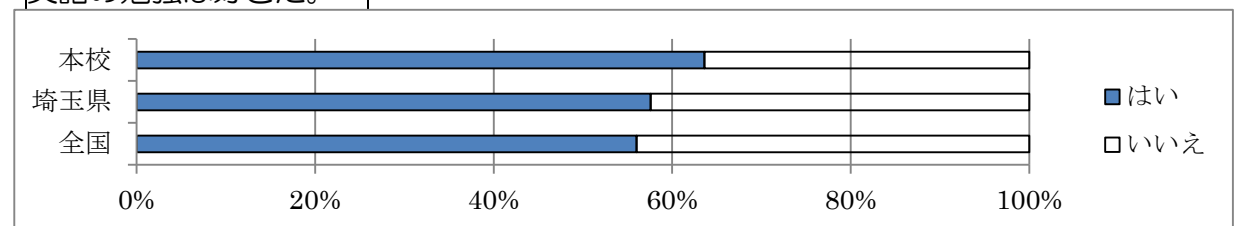
国語の勉強は好きだ。



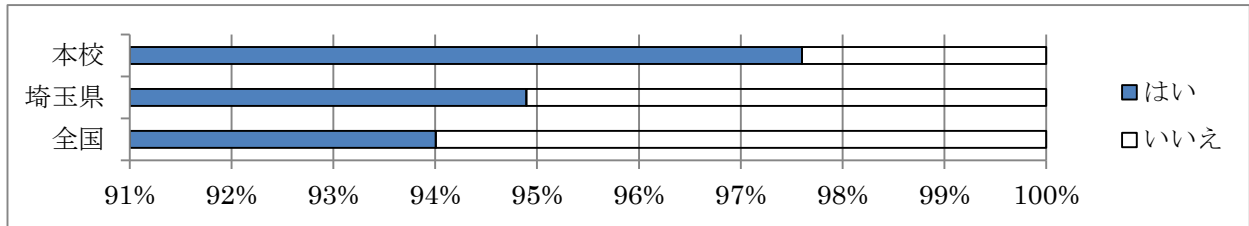
数学の勉強は好きだ。



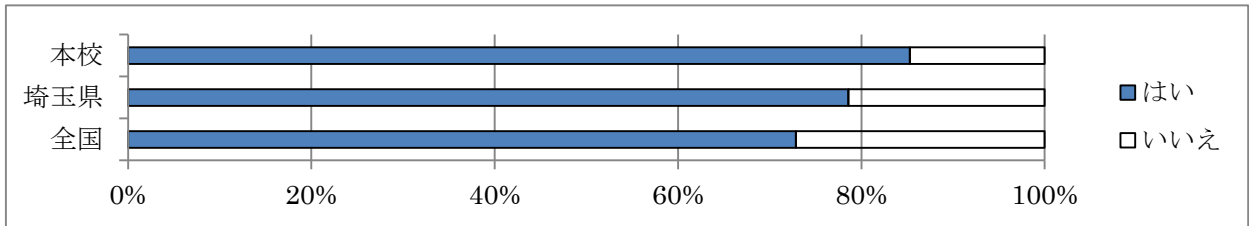
英語の勉強は好きだ。



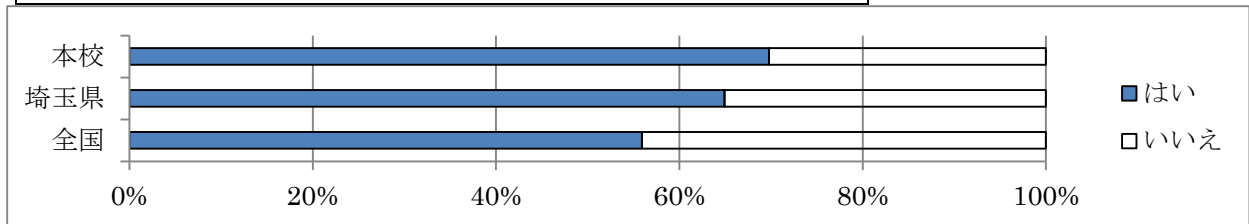
ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。



生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。



1, 2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく
伝わるよう、資料や文章、話の組立などを工夫して発表していた。



本校の調査結果の分析・考察

<国 語>

【領域別】

正答率は「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の領域が県、全国平均正答率を上回りました。授業において、常に「根拠をもって答えを出すこと」を意識させたこと、「話し合い活動等を積極的に取り入れていること」が要因だと思われます。しかし、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が1ポイントほど下回っており、日常生活の中から言葉に対する関心を高め、言語環境を整えていくことが必要です。

【問題（例）】

問題例 2 話し合いの場面で発言の役割について説明したものとして適切なものを選択する
正答 4

3人が、ある議題について話し合っている場面を見て、話し合いの流れを作る発言が、どんな役割を果たしているかを選択肢から答える問題でした。85%を超える正答率で、県や全国と比較しても5ポイントほど高くなっています。普段の授業でも役割を意識した話し合い活動を行っていることが要因と考えられます。

【問題（例）】

問題例 4 話したり書いたりする際に、語を省略する表現についての説明として適切なものを2つ選択する
正答 1、3

「インターネット」を「ネット」と省略するような表現について適切な説明をしている文を選択する問題でした。73%ほどの正答率で、県や全国と比較すると6ポイントほど低い結果でした。日常的に使う言葉について、どのような意識で使っているかを問う問題でしたが、選択肢の意味を理解することが難しい生徒もいたようです。

<数 学>

【領域別】

本校の正答率は、全領域において県・全国平均正答率を下回りました。特に関数の領域が県は5.7ポイント、全国は7.2ポイント下回り、その他は2.0ポイントほど下回りました。関数の領域において、伴って変わる2つの量の意味と比例や反比例、一次関数の基礎知識（表、式、グラフ）の理解を深めることが必要です。

【問題（例）】

問題例 2
連立方程式 $y = -2x + 1$
 $y = x - 5$
を解きなさい。
正答 $x = 2$ 、 $y = -3$

1次関数の形になっている二元一次方程式の連立方程式を解きなさいという問題でした。74%を超える正答率で、県や全国と比較しても4.3ポイント高くなっています。授業の中で毎時間基礎計算の小テストをくり返し行っていることが要因であると思われます。

【問題（例）】

問題例 6 (2)
冷蔵庫Bと冷蔵庫Cの総費用が等しくなる使用年数を求める方法をそれぞれの冷蔵庫の使用年数と総費用の関係を表す式かグラフ用いて説明しなさい。
正答例 (式を選択した場合)
冷蔵庫Bと冷蔵庫Cについて、使用年数と総費用の関係から連立方程式をつくり、それを解いて使用年数の値を求める。

求める方法を、関係を表す式かグラフを用いて説明する問題でした。正答率は24%と低く、全国と比較しても10.7ポイント低くなっています。求め方はわかっているが、それをポイントとなる言葉を正確に使い、説明できていないようでした。

<英語>

【領域別】

本校の正答率は「書くこと」においては、県平均、全国平均を2ポイントほど上回りました。それに対して「聞くこと」においては県平均を1ポイント下回りました。情報を正確に聞き取る能力を身に付けるために、日ごろから英語を聞き、正しく聞き取れたかを確認する機会を増やしていく必要があると考えます。

【問題（例）】

問題例 9 (2)①与えられた英語を適切な形に変え、会話が成り立つように英文を書く。

正答 Do you like

一般動詞を用いて Do から始まる疑問文を作る問題でした。80%を超える正答率で、県と全国の平均を5ポイント以上、上回っていました。

授業の中で英作文をする機会を多くしています。スピーチや、プレゼンテーション等、具体的で、身近な課題を設定して、表現する方法として、英作文を継続して学習したことが要因であると考えます。

【問題（例）】

問題例 4 来日する留学生の音声メッセージを聞いて、部活動についてのアドバイスを書く。

正答 (例) You can try the judo club.

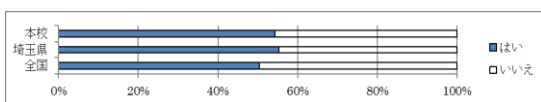
英語を聞き、それに対して英文を書かせる問題でした。この問題は正答率が5%ほどで、埼玉県と全国の平均点を下回っています。また無回答率も約70%で非常に苦戦した問題でした。

「聞くこと」が苦手な生徒が多いので、繰り返し英語を聞かせ、理解できる能力が必要だと考えます。

<質問紙調査から>

【質問番号 17】

家で、自分で計画を立てて勉強している。

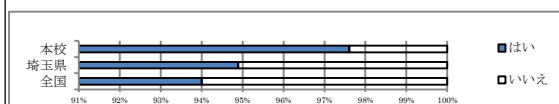


<分析>

「主体的な学習態度の育成」を目指した授業を行っている中で、「家で、自分で計画を立てて勉強している」と答えた生徒は全国と比較すると少し高い値ではありましたが、埼玉県内ではやや低い値となりました。授業や補習等で学習課題に対して目標をたてて取り組む生徒が増えてきていると考えられるので、自分の学習状況を把握し、目標に向けて計画的に学習する習慣づけをこれからも行っていきます。

【質問番号 9】

物事を最後までやり遂げてうれしかったことがある



<分析>

「物事を最後までやり遂げてうれしかったことがある」と答えた割合は全国、埼玉県内と比較しても本校は非常に高い値となっています。「できた」を実感できる場面を増やせるよう、授業等ではスモールステップで成長できる学習計画を基本として指導を行っており、効果が上がってきていると考えられます。自ら課題を見つけ、主体的な取り組みを行う中で試行錯誤し、課題を達成する喜びを味わうことのできるような取り組みをこれからも続けていきます。

<埼玉県学力・学習状況調査の概要>



※「平成31年度埼玉県学力・学習状況調査（調査の概要）」（埼玉県教育委員会より抜粋）

1 調査の目的

本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

参考：[【埼玉県学力・学習状況調査】埼玉県教育委員会ホームページ（新規ウィンドウを開きます）](https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html)

<https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html>

2 調査対象

中学校第1・2・3学年 原則として全生徒

3 調査実施日

平成31年4月11日（木）

4 調査の内容

（1）教科に関する調査

中学校第1学年 国語、数学

中学校第2学年及び第3学年 国語、数学、英語

※ 学習指導要領に示された内容のうち調査する各学年の前の学年までの内容

（2）質問紙調査

学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項

桶川市の調査結果の概況

<中学校>

は県平均正答率を上回ったもの

国語	第1学年			第2学年			第3学年		
	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
話すこと・聞くこと・書くこと	4	50.2	51.7	4	55.3	53.9	5	51.0	50.7
読むこと	9	56.5	57.1	9	53.4	51.3	9	51.1	49.1
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	17	68.1	69.2	17	65.9	64.8	16	56.7	56.6

数学（内容は算数）	第1学年		
	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
数と計算	13	57.8	59.7
量と測定	6	50.6	51.4
図形	7	63.4	64.2
数量関係	6	62.8	63.3

数学	第2学年			第3学年		
	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
数と式	12	55.8	59.1	12	53.4	58.6
図形	8	59.6	60.8	7	56.4	55.1
関数	7	59.7	61.3	7	60.7	60.6
資料の活用	5	58.2	57.8	6	57.8	58.3

英語	第2学年			第3学年		
	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率
聞くこと	10	58.0	62.1	10	63.2	61.7
話すこと	-	-	-	-	-	-
読むこと	20	50.0	54.6	22	53.3	54.5
書くこと	5	47.6	51.8	6	56.6	50.9

＜生徒への質問紙調査＞（主な結果：「規律ある態度」に関する項目の結果）

※ 達成率：「できる」「よくできる」「だいたいできる」の合計）と回答した割合

上段：本校の達成率、下段：県の達成率、 は80%以上 (％)

内容	項目	第1学年	第2学年	第3学年	
○けじめある生活ができる	1 時刻を守る				
	① 登校時刻		97.5	98.2	97.7
			98.1	97.5	96.6
	② 授業開始時刻		99.2	98.2	97.7
			98.2	97.5	97.2
	2 身の回りの整理整頓をする				
	③ 靴そろえ		93.4	92.9	94.6
			92.3	92.4	92.2
④ 整理整頓		85.1	86.7	86.0	
		85.3	86.1	86.3	
○礼儀正しく人と接することができる	3 進んであいさつや返事をする				
	⑤ あいさつ		94.2	84.1	82.2
			84.0	84.9	84.0
	⑥ 返事		94.2	94.7	93.0
			90.5	88.7	88.6
	4 ていねいな言葉づかいを身に付ける				
	⑦ ていねいな言葉づかい		96.7	93.8	89.1
			93.8	90.7	91.8
⑧ やさしい言葉づかい		96.7	87.6	85.3	
		91.4	86.3	87.1	
○約束やきまりを守ることができる	5 学習のきまりを守る				
	⑨ 学習準備		95.0	93.8	92.2
			92.1	89.9	89.6
	⑩ 話を聞き発表する		86.0	72.6	75.2
			76.6	71.9	71.8
	6 生活のきまりを守る				
	⑪ 集団の場での態度		98.3	92.0	91.5
			94.9	93.5	94.7
⑫ 掃除・美化活動		92.6	88.5	87.6	
		86.5	85.6	84.5	

本校の学力向上の取組

授業における取組

☆①授業規律の明確化

- ・教師と生徒が共通して「チャイムあいさつ」（チャイム着席でなく、チャイムで授業が開始される）というキーワードで実践しています。

☆②加納中型授業スタイルの確立

- ・各教科、授業の目標、ねらいを明確化し、つながりのある授業を行うことで、生徒が授業で学ぶ内容について見通しをもたせる取組を継続しています。
- ・授業の終わりには、振り返りの時間を設け、学習内容の理解や疑問点など確認します。

☆③繰り返し学習等による知識・技能の確実な習得

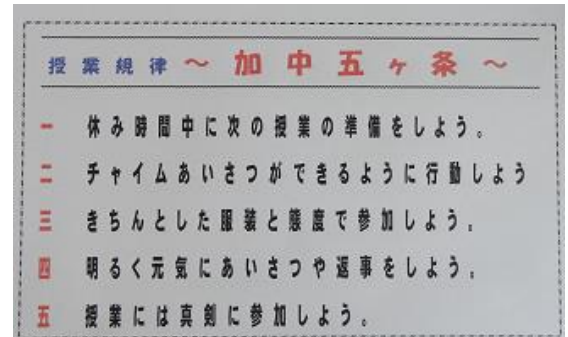
- ・授業開始時に前時の復習を行い、まとまった単元終了時に問題演習や小テストを行います。

■④「学び合いの活動」の充実

- ・教師主導型の授業でなく、生徒が主体となる活動を取り入れています。具体的には、グループでの話し合い活動、思考ツール（考えの流れを見るための道具）の活用によって「学び合いの活動」をしています。

■⑤電子黒板などICT機器の活用

- ・学習意欲の向上・「学び合いの活動」の効率化を図るICT機器をねらいに応じて活用していきます。また、そのための研修も行っています。



授業以外の取組

☆①「時」「場」「礼」の生徒指導共通目標の推進（小学校との連携）

- ・「時を守り、場を清め、礼を正す」を教師、生徒の共通目標として常日頃から取り組んでいます。

☆②朝読書の取組

- ・朝の会の前10分間を読書の時間とし、本に親しむ時間とするとともに、落ち着いた授業を受ける状態を作っています。

■③家庭学習の習慣化

- ・家庭学習の状況を自主学習ノートによって習慣化を図り、生活ノートの提出によって把握しています。

☆④小テスト・補習の取組

- ・週1回小テストを行い、基本的な内容の理解の定着を図ります。
- ・定期テスト前には教科の質問や補習の時間を設定します。

☆⑤加納中学校区の加納小、桶川東小との研修会

- ・「学び合いの活動」について研修会を実施し、小・中連携を通して「学力向上」に向けた実践をしています。

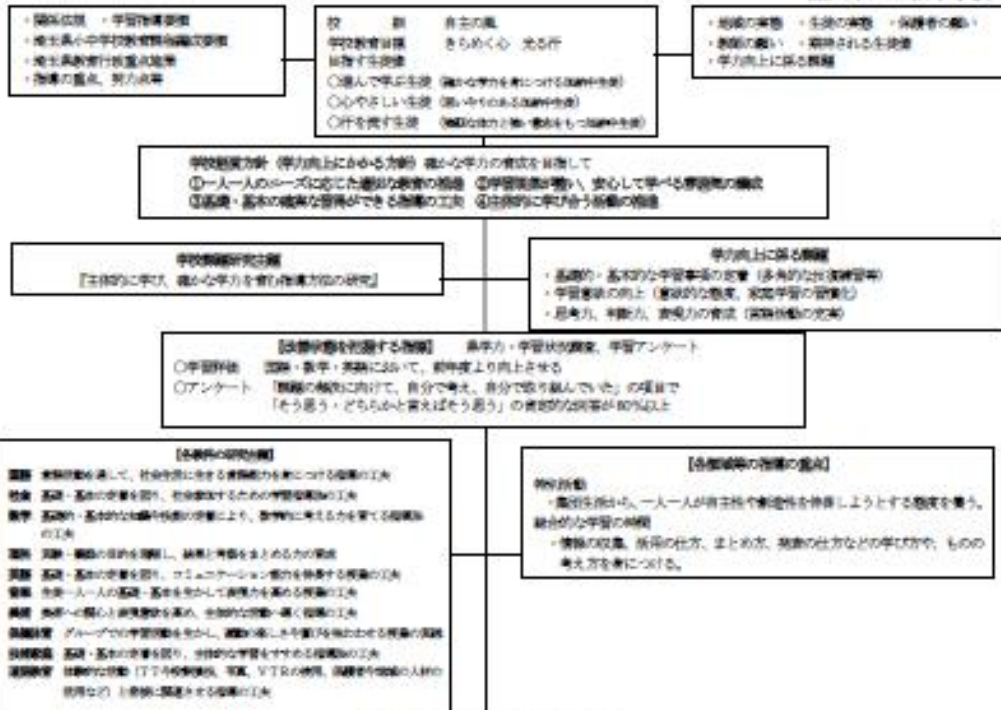
☆⑥校内掲示・展示の充実

- ・様々な活動の意欲を喚起したり、心に潤いをもたせるような生徒の優れた作品や取組の掲示・展示等を充実させたりします。

本校の学力向上プラン

令和元年度 学力向上全体計画

福川市立加納中学校



改善の観点 (具体的な取組)

	I	II	III	IV	V	VI	VII
改善の観点	指導内容・指導方法の工夫	学習指導要領上の工夫	全教育課程への対応の工夫	学習評価活動の工夫	授業計画の実施上の工夫	学習評価・検定の態面上工夫	家庭や地域・社会との連携の工夫
取組の基本方針	基礎的・基本的な知識・技能の定着と主体的な学びの研究に努める。	新学習指導要領を契機に入れた教育課程の編成に努める。	先行実施される内容を重点を置いた指導計画の立案とその実施に努める。	各教科の評価態様を明確にし、適切な評価に努める。	具体的に取り組む内容を明確にした上で、審判に挑戦し、模範を行う。	学習評価を生かす。技術的なことを重視すると共に、多角的で計画的、継続的な学習態度を促す。	学校だよりや学年だより等の計画的、継続的な発行により本校の教育方針の発信に努める。
取組のための具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○1単位の授業における工夫改善 ○協働学習を取り入れた授業改善の取組 ○練習の実施 ○授業評価アンケートの実施 ○校内実力テスト(学年別)実施と分析 ○授業改善アンケートの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○研究主題「主体的に学び、確かな学力を育む指導法」の研究 特に主体的に学ぶ姿勢を想定した指導計画の立案 ○総合的な学習の時間の指導計画の見直し ○進路科への準備 (卒業の作成、評価等の研究) 	<ul style="list-style-type: none"> ○教科横断的な知識・技能の活用を重視した指導計画の作成 ○進路の教科化(先行実施)に向けた学習計画の整備 ○学び合いの有効活用 ○実践活動を積極的に取り入れた授業の取組 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業後の振り返りや自己評価の方法の工夫改善 ○定期テスト後の振り返りを活用した学習目標の設定 	<ul style="list-style-type: none"> ○PFDCAサイクルに合わせた授業改善の取組 ○「引継ぎ支援プログラム」を用いた取組の継続と評価の取組 ○先行研究の取組 ○学習指導を中心に、他教科の模範研究の継続的な実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習評価の2段階実施 ○保護者アンケートの実施 ○全校の学校生活に関する意識調査の実施 ○学習指導委員会 ○全国・県学力学習状況調査等の分析 	<ul style="list-style-type: none"> ○成績発表、通知票の見直しと改善 ○定期テスト後の振り返り ○情報の出し方の工夫と家庭学習ノートを活用した家庭学習習慣の形成
関連する行事等	<ul style="list-style-type: none"> ・新教育と新学習 ・学力向上推進特別訪問での研究、公開授業 ・校内授業参観運営 	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバス (30中の学力) ・ホームページ 	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバス (30中の学力) ・ホームページ 	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバス (30中の学力) ・ホームページ 	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上推進特別訪問での研究、公開授業 ・校内授業参観運営 	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA総会 ・学習指導委員会 ・学年、学期別懇話会 ・校内公開授業参観 ・学校だより 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校公開授業参観 ・PTA総会 ・家庭訪問、三者面談 ・学校、学年だより ・学校ポータルページ

各教科学力向上プラン

保護者・地域の皆様へ

本校では、一昨年度から「主体的に学び、確かな学力を育む指導方法の研究」と題し、授業に「学び合い」の活動、意図的なスモールステップの設定を取り入れてきました。その結果、生徒の積極的な授業参加と、学習事項の定着が図られました。学力テストの結果を見ても、全国学力・学習状況調査では、国語、英語での平均正答率で県・全国平均を上回りました。また、学習環境を整えるための取組として、「チャイムあいさつ」を励行しています。学習規律が整うことで、授業にも集中でき、話し合いの活動における学習効果が高まります。そして、学習環境を整えることも学力向上において、非常に大切です。本校でも、より授業に集中しやすくするよう教室に掲示を工夫しているほか、カバンなどの用具についてはロッカーにしまい、机にはかけないようにする、清掃活動を徹底しておこなうなど、学習環境が整った状態で授業を行うように努めてまいりました。学校で習った学習内容を定着させ、それぞれの思考・判断に生かせるようにするには、家庭学習が欠かせません。さらなる学力の向上のために、宿題だけでなく個々の課題に合わせた学習の支援をお願いいたします。

また、「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」「自分によいところがある」という質問に対する数値はともに県・全国平均を上回りました。今後とも生徒の自主的な活動を増やし、「できた」「やりとげた」という実感がもてるような取組を増やすことで自信をつけていきます。

